

2020年度第2四半期 決算説明資料

2020年11月5日
株式会社 神戸製鋼所
証券コード 5406

KOBELCO

1. 2020年度第2四半期 業績概要
2. 2020年度 業績見通し
3. 参考情報

1. 2020年度第2四半期 業績概要

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響（以下、コロナ影響）を大きく受けた第1四半期から回復しつつあるが、状況は厳しく、前年同期比で大幅な減収減益となった。

- ・売上高・・・素材系事業、建設機械で大きく減収
- ・経常損益・・・機械、電力は増益も、鉄鋼アルミ、エンジ、建設機械を中心に減益
- ・特別損益・・・固定資産売却益や投資有価証券売却益などを計上

(単位：億円)

	2019年度 上期 ①	2020年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	9,444	7,764	△1,680
営業損益	74	△271	△345
経常損益	14	△352	△367
在庫評価影響を除く	29	△247	△277
特別損益	△41	※ 136	+ 177
親会社株主に帰属する 四半期純損益	△62	△152	△89

※特別損益の内訳

- 特別利益
 - ・固定資産売却益 98億円
 - ・段階取得に係る差益 32億円
 - ・投資有価証券売却益 31億円
- 特別損失
 - ・減損損失 △25億円

	2019年度上期	2020年度上期
USドル (円/\$)	109	107
中国元 (円/元)	15.7	15.3
ユーロ (円/€)	121	121

○売上高

	2019年度 上期 ①	2020年度 上期 ②	増減 ②-①
鉄鋼アルミ	3,960	3,112	△848
素形材	1,496	1,053	△443
溶接	431	347	△83
機械	804	864	+59
エンジニア リング	614	560	△54
建設機械	1,978	1,618	△360
電力	354	370	+15
その他	138	108	△29
調整額	△333	△270	+63
合計	9,444	7,764	△1,680

○経常損益

(単位：億円)

	2019年度 上期 ③	2020年度 上期 ④	増減 ④-③
鉄鋼アルミ	△45	△418	△373
素形材	△96	△109	△13
溶接	18	6	△12
機械	23	41	+18
エンジニア リング	21	△6	△28
建設機械	87	47	△40
電力	16	81	+65
その他	0	7	+6
調整額	△11	△1	+10
合計	14	△352	△367

(単位：億円)

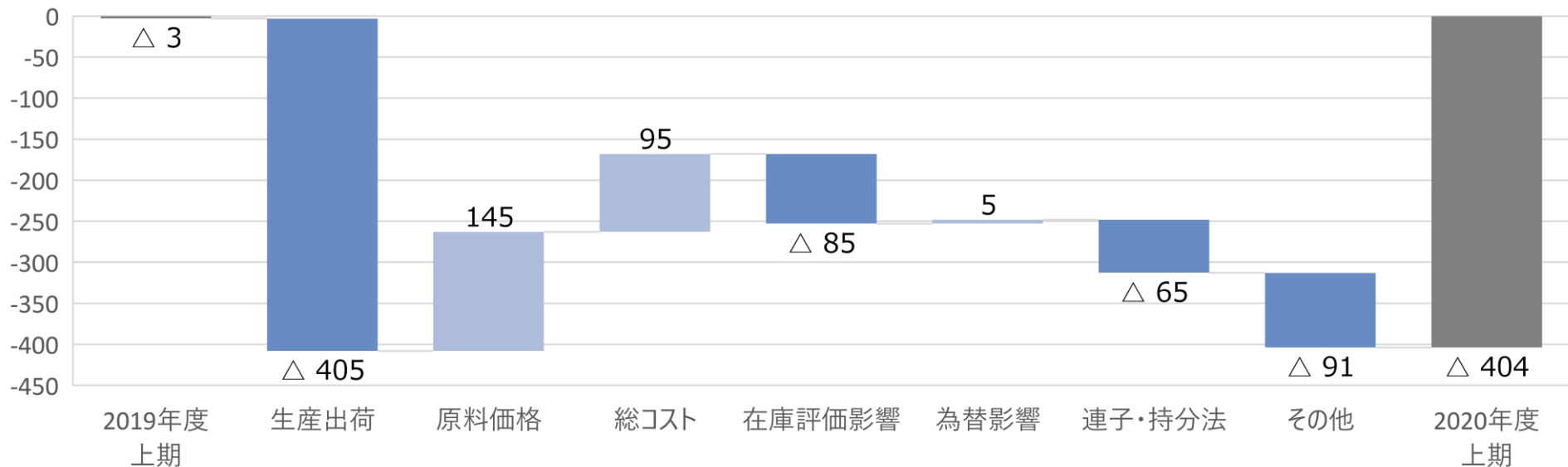
		2019年度 上期 ①	2020年度 上期 ②	増減 ②-①
鉄鋼	売上高	3,300	2,452	△848
	経常損益	△3	△404	△401
	在庫評価影響を除く	△3	△319	△316
アルミ板	売上高	659	659	+0
	経常損益	△42	△14	+28
	在庫評価影響を除く	△37	0	+38
合計	売上高	3,960	3,112	△848
	経常損益	△45	△418	△373
	在庫評価影響を除く	△40	△318	△278

鉄鋼

経常損益：2019年度上期△3億円 → 2020年度上期△404億円（前年同期比△401億円）

- 粗鋼生産：248万t（前年同期比△91万t）
- 販売数量：204万t（前年同期比△68万t）
 - ・コロナ影響により、自動車向けをはじめ全般的に減少
- 販売価格：79,100円（前年同期比△7,600円）
 - ・主原料価格の下落
 - ・輸出価格の下落
- 損益変動要因
 - ・販売数量の減少
 - ・メタルスプレッドの改善
 - ・緊急収益改善や、ベースコスト改善等による総コストの削減
 - ・在庫評価影響の悪化

※関連データはP33～35

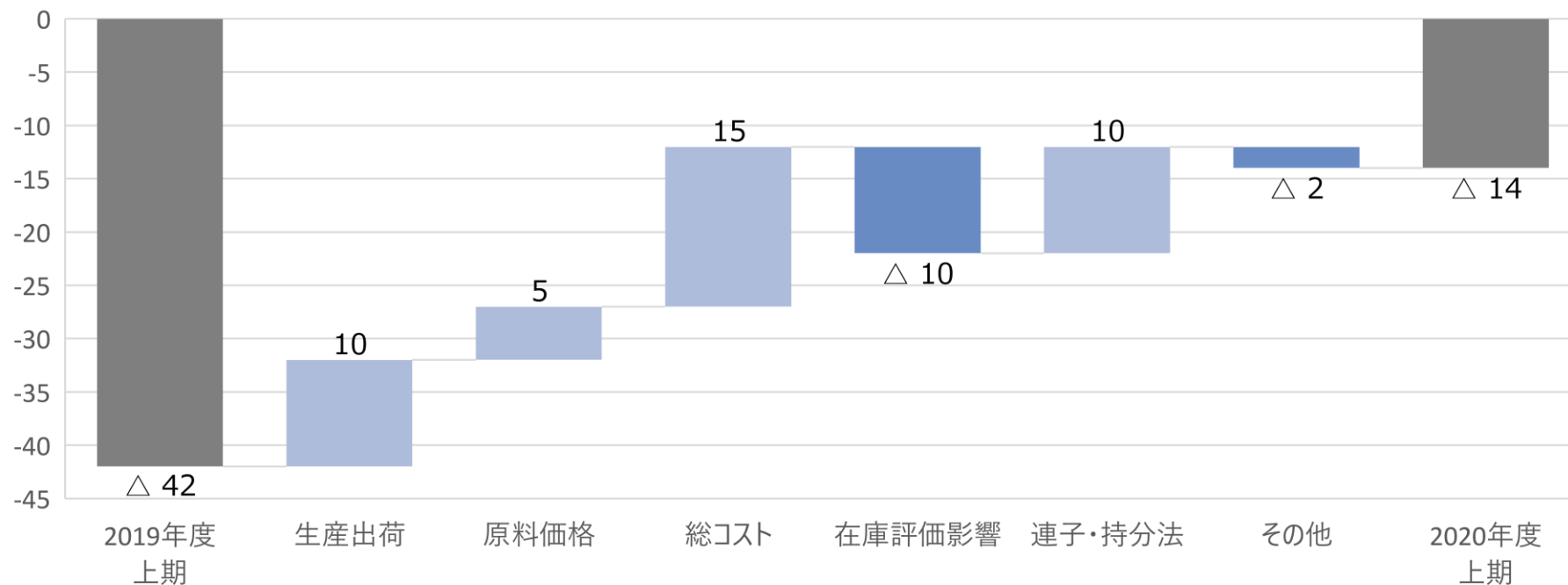


アルミ板

経常損益：2019年度上期△42億円 → 2020年度上期△14億円（前年同期比+28億円）

- 販売数量：152千t（前年同期並）
- コロナ影響により、自動車向けは減少も、その他の分野では増加
- ・飲料用缶材向け：堅調に推移
- ・IT・半導体向け：データセンター向けなどで増加
- ・自動車向け：減少
- 損益変動要因
- ・ロールマージンの改善
- ・緊急収益改善や、ベースコスト改善等による総コストの削減
- ・在庫評価影響の悪化

※関連データはP34～35

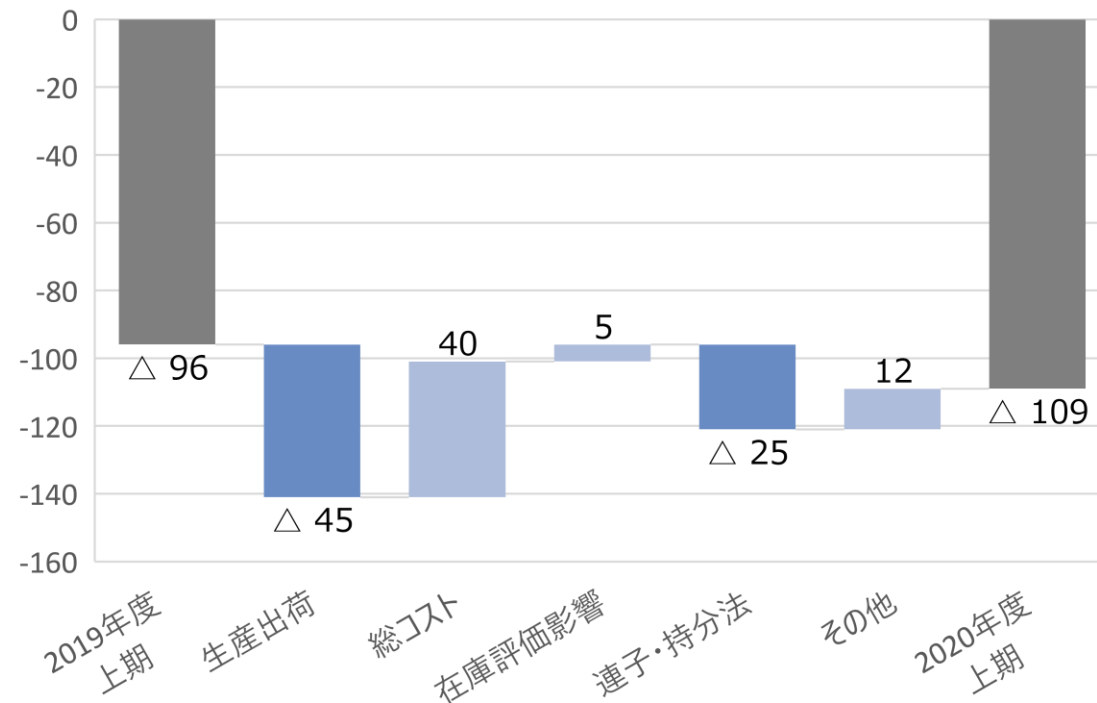


(単位：億円)

	2019年度 上期 ①	2020年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	1,496	1,053	△443
経常損益	△96	△109	△13
在庫評価影響を除く	△86	△104	△18

- 販売数量：減少
 - ・自動車、航空機、造船向けなどで減少
- 損益変動要因
 - ・緊急収益改善等による総コストの削減
 - ・前期に減損損失を計上したことによる減価償却費の減少
 - ・コロナ影響による連結子会社等の業績悪化

※関連データはP34



(単位：億円)

	2019年度 上期 ①	2020年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	431	347	△83
経常損益	18	6	△12

■ 販売数量

・溶接材料：減少

国内：コロナ影響により、自動車や建設機械の工場停止の影響を受けて大きく減少

海外：コロナ影響により、中国や東南アジアでの自動車向けで減少

・溶接システム（売上高）：減少

コロナ影響により減少

■ 損益変動要因

・販売数量の減少

・緊急収益改善などによるコスト削減

※関連データはP34

(単位：億円)

	2019年度 上期 ①	2020年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	804	864	+ 59
経常損益	23	41	+ 18
受注高	805	506	△298
	2019年度末 ①	2020年度上期末 ②	増減 ②-①
受注残高	1,551	1,361	△190

■ 受注高：減少

・コロナ影響による設備の圧縮・繰り延べを背景に、産業機械・圧縮機ともに減少

■ 売上高・経常損益：増収増益

・前期に受注が好調だった、LNG船向けや石油化学向けを中心に進捗

・コスト削減

(単位：億円)

	2019年度 上期 ①	2020年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	614	560	△54
経常損益	21	△6	△28
受注高	※ 696	758	+61
	2019年度末 ①	2020年度上期末 ②	増減 ②-①
受注残高	※ 2,911	3,220	+308

※神鋼環境ソリューションの水処理/ごみ処理等に関する長期運転維持管理業務について、従来は売上時点で受注高として集計していた。当期より、契約の受託時点で受注高として集計する方法に変更したことに伴い、前年同期の受注高および前年度末の受注残高を受託ベースで再集計。

■ 受注高：増加

- ・水処理関連事業で大型案件を受注

■ 売上高・経常損益：減収減益

- ・コロナ影響による海外案件の工期後ろ倒し

(単位：億円)

	2019年度 上期 ①	2020年度 上期 ②
売上高	1,978	1,618
経常損益	87	47

増減 ②-①
△360
△40

■ 販売台数

・油圧ショベル：減少

国内：コロナ影響は小さく、小幅な減少

中国：小幅な減少

⇒コロナ影響により1Q(1-3月)は大幅に減少したが、2Q(4-6月)は
インフラ投資の拡大により、前年同期を上回る需要となった

その他：コロナ影響により大きく減少

・クローラクレーン：減少

国内：コロナ影響は限定的で前年同期並

東南アジア：増加

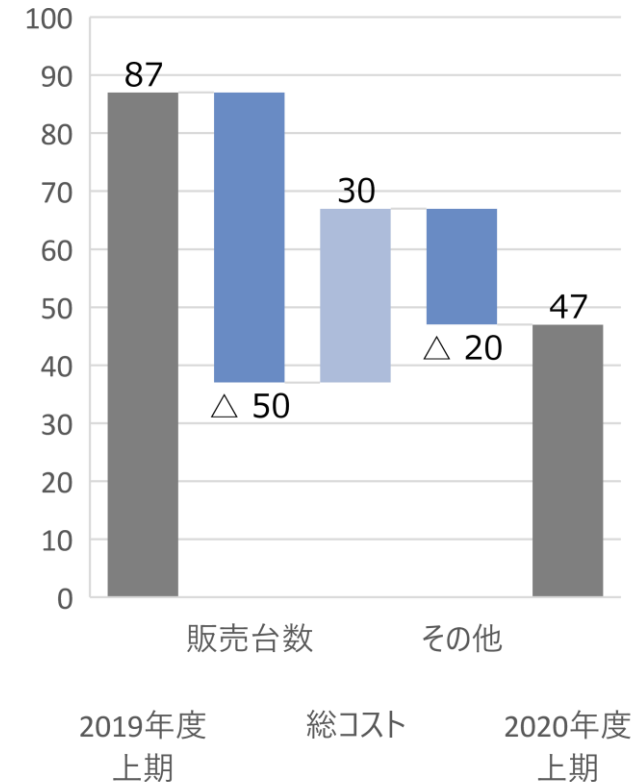
⇒シンガポール、フィリピンで販売台数を伸ばす

その他：コロナ影響により減少

■ 損益変動要因

・販売台数減少

・コスト削減



(単位：億円)

	2019年度 上期 ①	2020年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	354	370	+15
経常損益	16	81	+65

- 販売電力量：増加
 - ・真岡発電所1,2号機が稼働
- 販売単価：下落
 - ・燃料価格が下落
- 損益変動要因
 - ・真岡発電所の稼働開始
 - ・神戸発電所（1、2号機）の保全費、減価償却費の減少

2. 2020年度 業績見通し

前回予想に比べ、自動車向けの需要の回復は想定より早まったが、航空機、造船などは第2四半期から徐々にコロナ影響が顕在化し、設備投資の圧縮・繰り延べの動きもみられる。
 経常損益は、緊急収益改善などのコスト削減の積み増しなどにより、前回比+250億円改善の見込み。

(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度見通し (前回)			2020年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	18,698	7,700	8,700	16,400	7,764	8,800	16,500	△2,198	+100
営業損益	98	△500	150	△350	△271	120	△150	△248	+200
経常損益	△80	△600	0	△600	△352	0	△350	△270	+250
在庫評価影響を除く	△60	△430	△55	△485	△247	△60	△305	△245	+180
特別損益	△574	160	-	160	136	-	※ 136	+710	△24
親会社株主に帰属する 当期純損益	△680	△350	0	△350	△152	0	△150	+530	+200

※特別損益の内訳

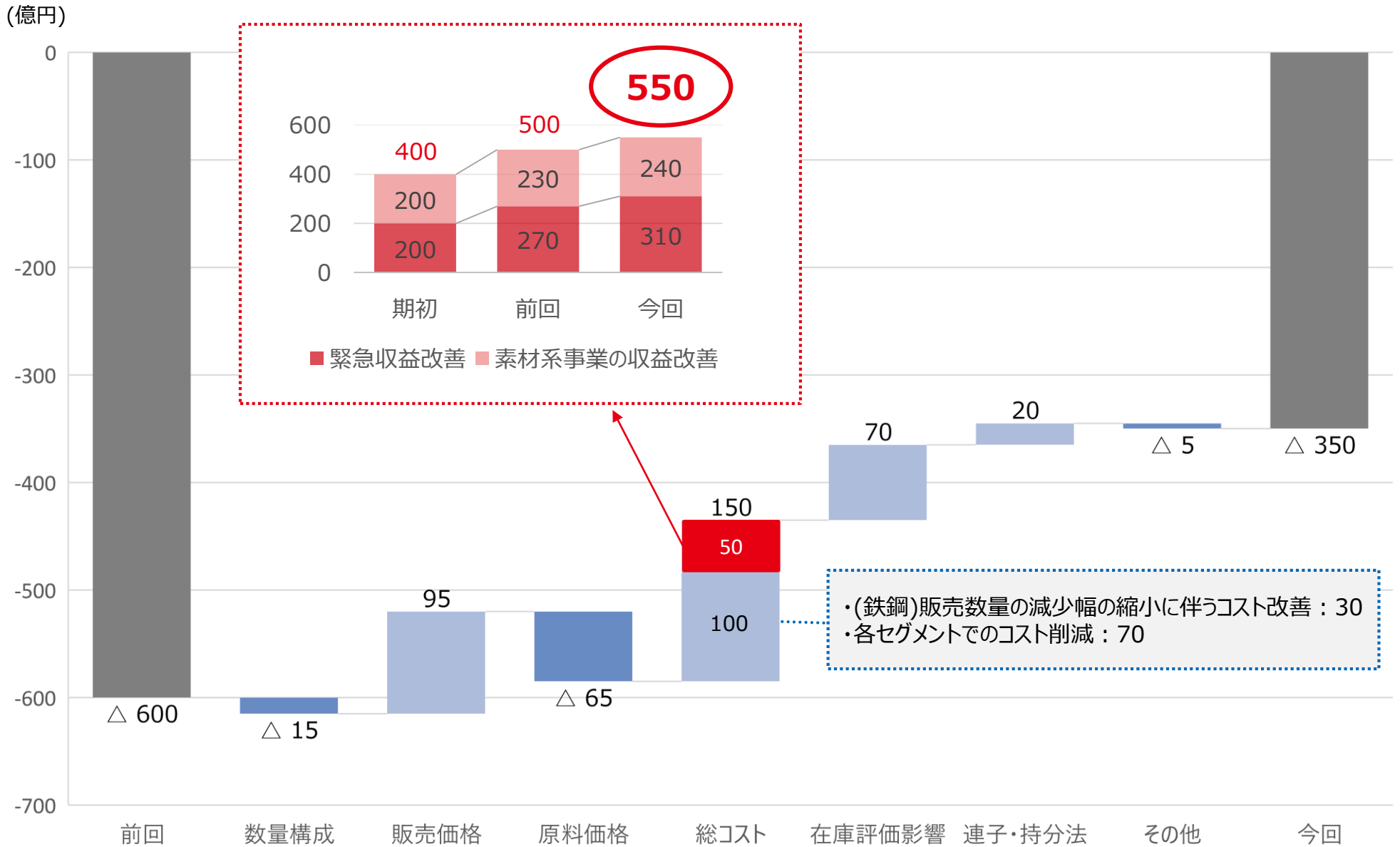
○特別利益

- ・固定資産売却益 98億円
- ・段階取得に係る差益 32億円
- ・投資有価証券売却益 31億円

○特別損失

- ・減損損失 △25億円

	2019年度	2020年度
USドル (円/\$)	109	105
中国元 (円/元)	15.6	15.0
ユーロ (円/€)	121	122



() は需要変動の影響を受けるユニット

<p>自動車</p>	<p>(鉄鋼、アルミ板、サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉、溶接) 国内・海外共に、自動車生産台数は1Qを底に徐々に回復すると想定。 《日系自動車メーカー生産台数(海外含む)の想定(前年同期比)》</p> <table border="1" data-bbox="327 382 1562 554"> <thead> <tr> <th></th> <th>1Q</th> <th>2Q</th> <th>3Q</th> <th>4Q</th> <th>通期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前回</td> <td>△40%</td> <td>△30%</td> <td>△20%</td> <td>0%</td> <td>△20%</td> </tr> <tr> <td>今回</td> <td>△45%</td> <td>△15%</td> <td>△10%</td> <td>0%</td> <td>△15%</td> </tr> </tbody> </table>		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前回	△40%	△30%	△20%	0%	△20%	今回	△45%	△15%	△10%	0%	△15%
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期														
前回	△40%	△30%	△20%	0%	△20%														
今回	△45%	△15%	△10%	0%	△15%														
<p>航空機</p>	<p>(アルミ鋳鍛、チタン) 旅客需要の減少により、今後数年間は市場は低迷すると想定。</p>																		
<p>造船</p>	<p>(鉄鋼・鋳鍛鋼・溶接) コロナ以前から市場は低迷。 新規商談の停滞や建造計画の後ろ倒しなどで、前期比△20%程度需要が減少すると想定。</p>																		
<p>飲料缶</p>	<p>(アルミ板) 自販機の売上は減少も、外出自粛による需要があり、堅調に推移すると想定。</p>																		
<p>IT・半導体</p>	<p>(アルミ板、銅板) 一部で需要減少も、データセンター向けディスク材やパソコンや携帯電話向けリードフレーム材など、IT半導体向けは概ね好調。</p>																		
<p>建築土木</p>	<p>(鉄鋼、溶接) 影響が徐々に顕在化。 企業の投資意欲減退やホテル、商業ビル等の需要の減少により、下期にかけて悪化すると想定。</p>																		

○売上高

(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度見通し (前回)			2020年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
鉄鋼アルミ	7,802	3,000	3,400	6,400	3,112	3,538	6,650	△1,152	+250
素形材	2,971	1,000	1,200	2,200	1,053	1,147	2,200	△771	-
溶接	837	350	360	710	347	333	680	△157	△30
機械	1,659	910	940	1,850	864	946	1,810	+151	△40
エンジニア リング	1,415	590	810	1,400	560	800	1,360	△55	△40
建設機械	3,608	1,600	1,800	3,400	1,618	1,732	3,350	△258	△50
電力	756	370	360	730	370	350	720	△36	△10
その他	336	110	170	280	108	152	260	△76	△20
調整額	△689	△230	△340	△570	△270	△198	△530	+159	+40
合計	18,698	7,700	8,700	16,400	7,764	8,800	16,500	△2,198	+100

○経常損益

(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度見通し (前回)			2020年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
鉄鋼アルミ	△165	△580	△120	△700	△418	△22	△440	△275	+260
素形材	△252	△135	△65	△200	△109	△66	△175	+77	+25
溶接	29	0	5	5	6	△1	5	△24	-
機械	96	20	35	55	41	39	80	△16	+25
エンジニア リング	57	△10	30	20	△6	16	10	△47	△10
建設機械	75	35	45	80	47	8	55	△20	△25
電力	89	70	80	150	81	74	155	+66	+5
その他	33	0	30	30	7	13	20	△13	△10
調整額	△44	0	△40	△40	△1	△61	△60	△16	△20
合計	△80	△600	0	△600	△352	0	△350	△270	+250

(単位：億円)

	2019年度 実績	2020年度見通し (前回)			2020年度見通し (今回)			増減		
		①	上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
鉄鋼	売上高	6,500	2,300	2,750	5,050	2,452	2,818	5,270	△1,230	+ 220
	経常損益	△88	△550	△120	△670	△404	△21	△425	△337	+ 245
	在庫評価影響を 除く	△88	△430	△175	△605	△319	△86	△405	△317	+ 200
アルミ板	売上高	1,301	700	650	1,350	659	721	1,380	+ 79	+ 30
	経常損益	△77	△30	0	△30	△14	△1	△15	+ 62	+ 15
	在庫評価影響を 除く	△57	△10	5	△5	0	4	5	+ 62	+ 10
合計	売上高	7,802	3,000	3,400	6,400	3,112	3,538	6,650	△1,152	+ 250
	経常損益	△165	△580	△120	△700	△418	△22	△440	△275	+ 260
	在庫評価影響を 除く	△145	△440	△170	△610	△318	△82	△400	△255	+ 210

鉄鋼

経常損益：20年度見通し（前回）△670億円→（今回）△425億円（前回比+245億円）

・自動車向け需要の回復やこれに伴うお客様の在庫積み影響等もあり、前回より増加の見込み

■粗鋼生産：565万t（前回比+25万t）

■販売数量：460万t（前回比+25万t）

■損益変動要因

・販売数量の増加

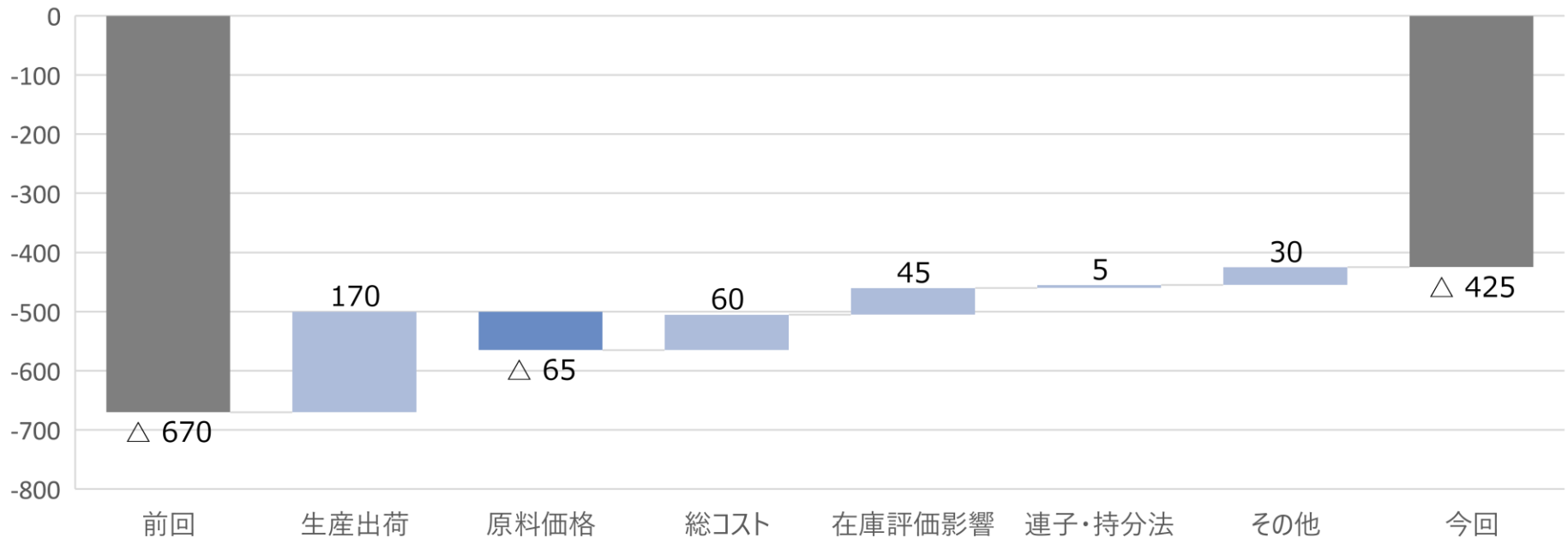
・メタルスプレッドの改善

・数量減少幅の縮小に伴うコスト悪化の改善

・緊急収益改善や、ベースコスト改善等による総コスト削減の積み増し

・在庫評価影響の改善

※関連データはP33～35



経常損益：20年度見通し（前回）△30億円→（今回）△15億円（前回比+15億円）

■ 販売数量：310千t程度（前回比+10千t）

・中国での自動車向けアルミパネル需要の回復

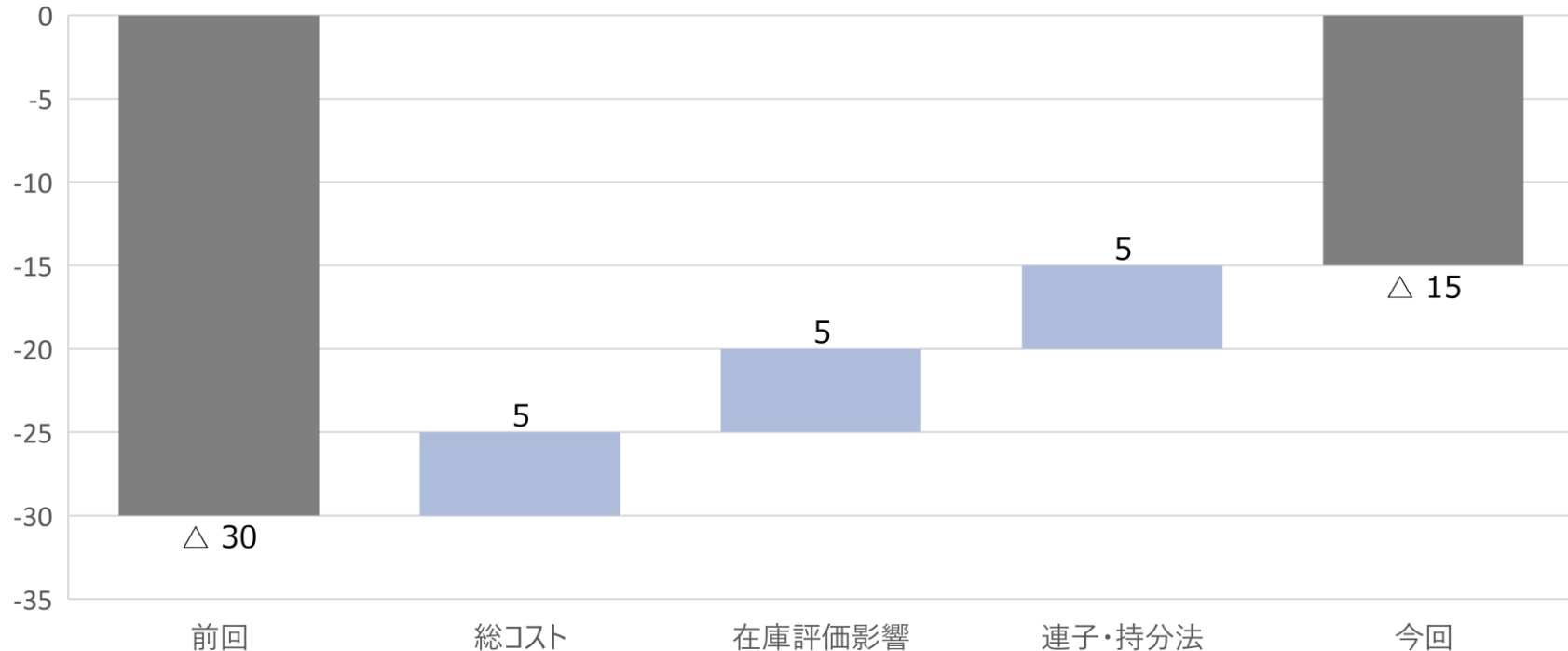
■ 損益変動要因

・緊急収益改善や、拡販・ロールマージンの改善等による収益改善

・在庫評価影響の改善

・中国拠点（アルミパネル材）の収益改善

※関連データはP34～35



(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度見通し (前回)			2020年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	2,971	1,000	1,200	2,200	1,053	1,147	2,200	△771	-
経常損益	△252	△135	△65	△200	△109	△66	△175	+77	+25
在庫評価影響を 除く	△252	△105	△70	△175	△104	△66	△170	+82	+5

前回 △200億円 → 今回 △175億円 +25億円

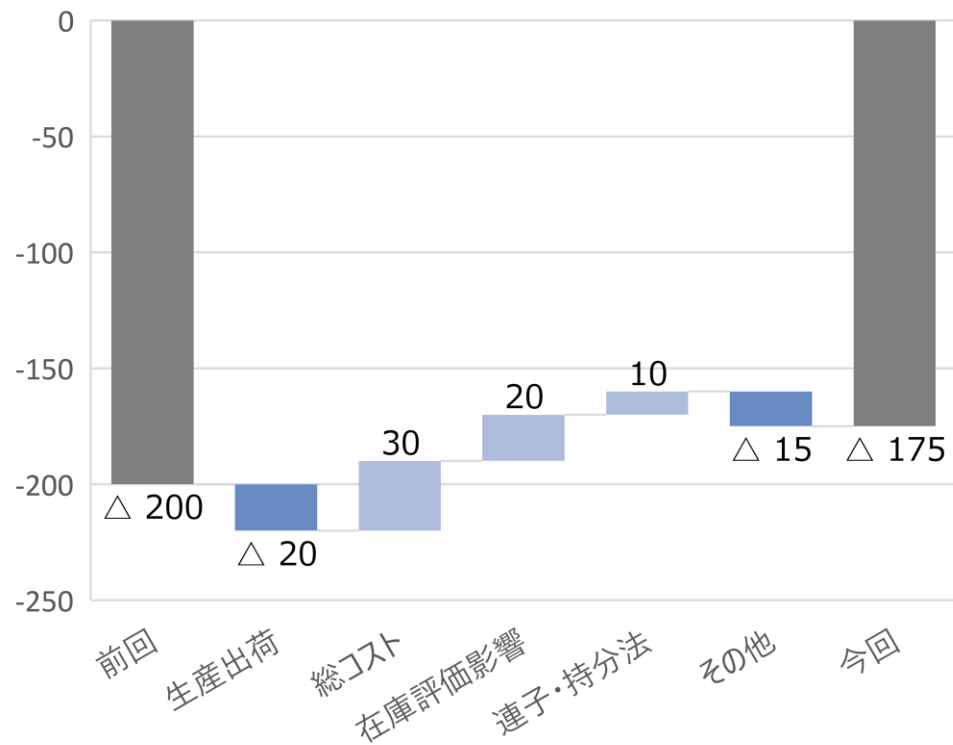
■ 販売数量

- ・自動車向け（サスペンション、銅板など）：増加
⇒1Qを底に回復基調
- ・航空機向け（チタンなど）：減少
- ・造船向け（鋳鍛鋼）：減少
⇒2Qよりコロナ影響が顕在化

■ 損益変動要因

- ・緊急収益改善や、拡販などによる収益改善
- ・在庫評価影響の改善

※関連データはP34



(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度見通し (前回)			2020年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	837	350	360	710	347	333	680	△157	△30
経常損益	29	0	5	5	6	△1	5	△24	-

前回 5億円 → 今回 5億円 -1億円

■ 販売数量

・溶接材料：減少

国内：コロナ影響により、建築鉄骨向けや造船向けで前回想定より減少

海外：コロナ影響による世界的な景気停滞により、前回想定より需要が回復せず

・溶接システム（売上高）：前回想定並

■ 損益変動要因

・販売数量の減少

・緊急収益改善などによるコスト削減

※関連データはP34

(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度見通し (前回)			2020年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	1,659	910	940	1,850	864	946	1,810	+151	△40
経常損益	96	20	35	55	41	39	80	△16	+25
受注高	1,516	—	—	1,600程度	506	950程度	1,450程度	△50程度	△150程度

前回 55億円 → 今回 80億円 +25億円

■ 受注高：減少

- ・設備投資の圧縮・繰り延べの傾向が強く、国内外ともに需要環境が悪化

■ 売上高：減収

- ・回転機の大型案件が、21年度に期ずれ見込み

■ 損益変動要因

- ・コスト削減

(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度見通し (前回)			2020年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	1,415	590	810	1,400	560	800	1,360	△55	△40
経常損益	57	△10	30	20	△6	16	10	△47	△10
受注高	※ 1,345	—	—	1,500程度	758	590程度	1,350程度	+5程度	△150程度

※神鋼環境ソリューションの水処理/ごみ処理等に関する長期運転維持管理業務について、従来は売上時点で受注高として集計していた。当期より、契約の受託時点で受注高として集計する方法に変更したことに伴い、前期の受注高を受託ベースで再集計。

前回 20億円 → 今回 10億円 △10億円

■ 受注高：減少

- ・一部案件が2021年度以降に後ろ倒しになることから、前回想定を下回る見込み

■ 売上高・経常損益：減収減益

- ・コロナ影響による海外案件の工期後ろ倒しが前回想定時よりも長期化

(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度見通し (前回)			2020年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	3,608	1,600	1,800	3,400	1,618	1,732	3,350	△258	△50
経常損益	75	35	45	80	47	8	55	△20	△25

前回 80億円 → 今回 55億円 △25億円

■ 販売台数

[油圧ショベル]…前回並

国内：前回、コロナ影響は限定的と見ていたが、想定より需要が伸びず

中国：1Qはコロナ影響で減少も、2Qに入り好転

下期も好調を維持すると想定

その他の地域：地域により増減あるも、東南アジアなどで予想を上方修正

[クローラークレーン]…減少

国内：前回、コロナ影響は限定的と見ていたが、本格的な営業活動再開が想定より遅れ、下方修正

海外：地域により増減あるが、前回並を見込む

■ 損益変動要因

・販売台数の減少

(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度見通し (前回)			2020年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	756	370	360	730	370	350	720	△36	△10
経常損益	89	70	80	150	81	74	155	+66	+5

前回 150億円 → 今回 155億円 +5億円

- 販売電力量：前回並
- 販売単価：下落
 - ・燃料価格の下落
- 損益変動要因
 - ・コスト削減

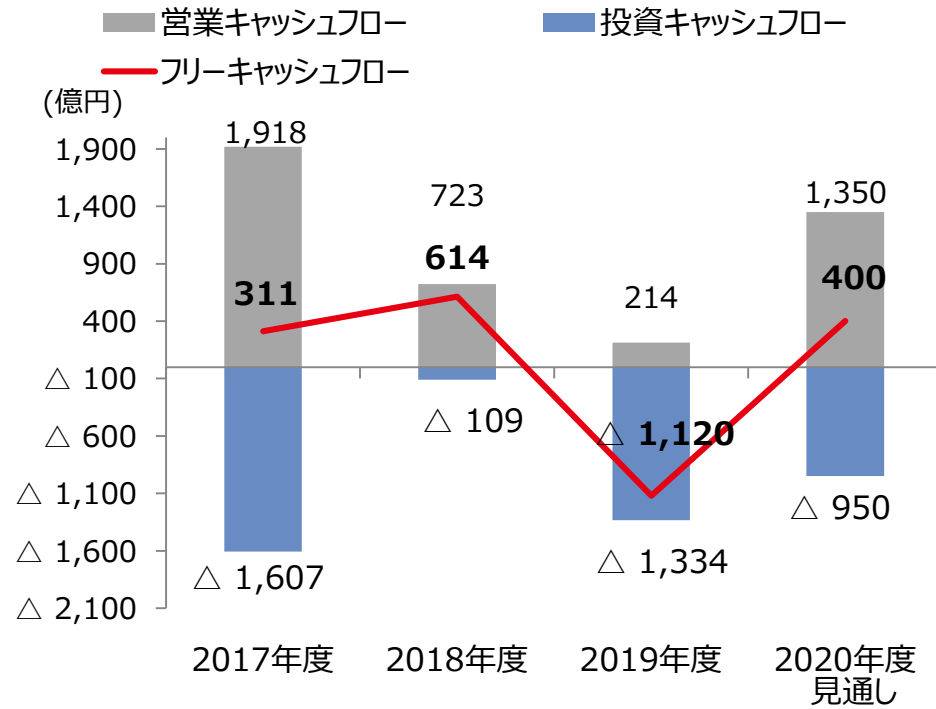
- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮して決定することとしております。（配当性向の目安は、親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の15%～25%としております）
- 当期の中間配当につきましては、8月6日に公表の通り、誠に遺憾ながら見送る方針を決議しております。
- 期末配当につきましては、予想額を未定としております。

	2019年度			2020年度		
	中間	期末		中間	期末	
配当金額 (円/株)	－	－	－	－	未定	未定
配当性向			－			

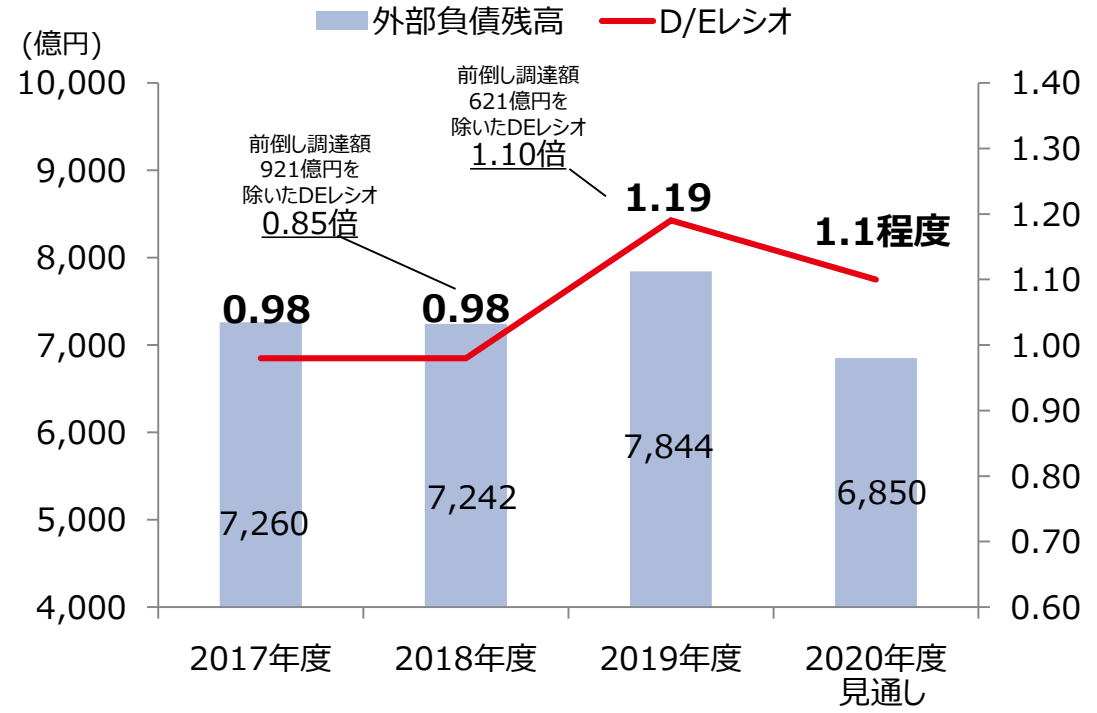
- コロナ影響による事業環境の急速な悪化を受け、緊急措置として以下の対応を実施中。
 - ・需要に見合った生産の徹底による支出の最大限の抑制
 - ・グループ会社を含めたきめ細かい資金管理と必要な対策の実施
 - ・更新投資など事業運営上不可欠なもの以外の設備投資・投融資の凍結
- 棚卸資産の削減、資産売却、設備投資の厳選等により、キャッシュフロー改善策を計画。
 期初:1,200億円→前回:1,300億円→今回:1,400億円まで積み上げ。(2Q時点で約700億円が実現)
- 財務の健全化 (D/Eレシオ1倍以下) を最優先課題と位置づけ、更なる対策を検討中。

※フリーキャッシュフローおよびD/Eレシオに、プロジェクトファイナンスは含まれておりません

《フリーキャッシュフロー》

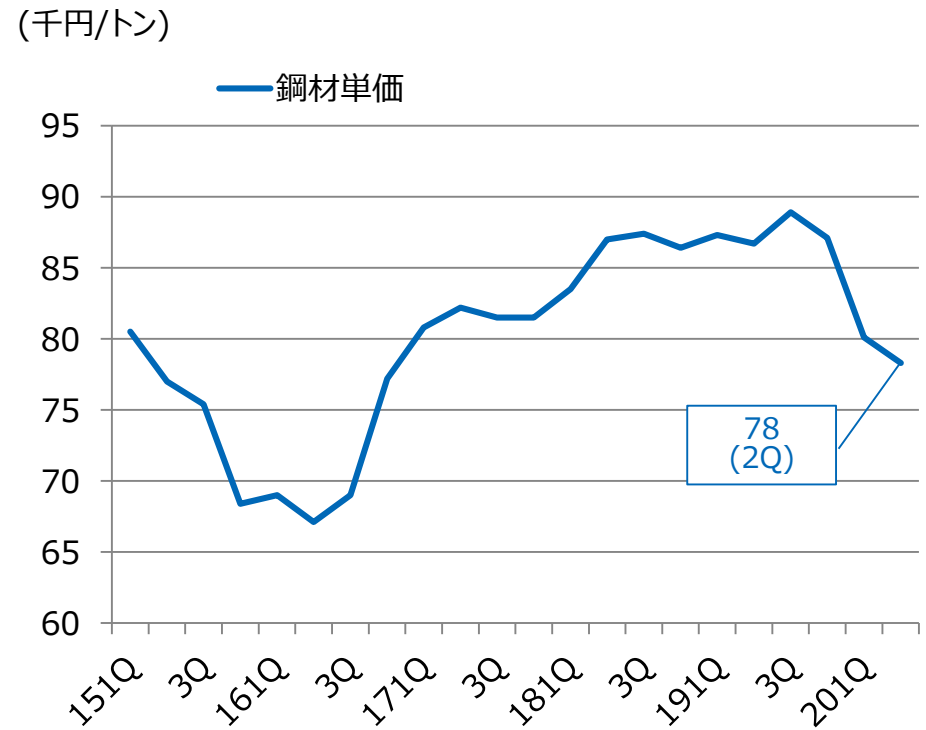
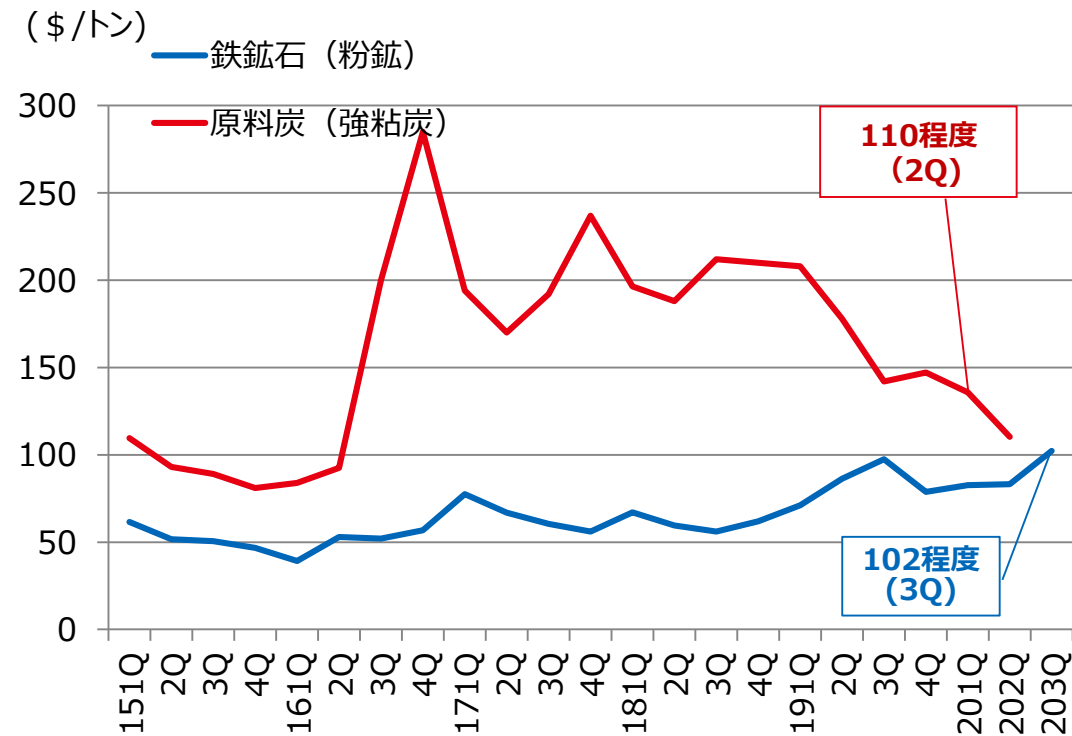


《有利子負債残高・D/Eレシオ》



3. 参考情報

	2019年度			2020年度	
	上期	下期	年度	上期	
全国粗鋼(万t)	5,067	4,774	9,842	3,710	4-9月計速報
全国在庫水準(万t)	594	579	579	537	8月末
薄板3品在庫水準(万t)	444	439	439	367	9月末
国内自動車生産台数(万台)	483	467	949	253	4-8月計



	2019年度実績			2020年度 見通し (前回)	2020年度見通し (今回)	
	上期	下期	通期	通期	上期	通期
粗鋼生産量 (万t)	339	311	650	540程度	248	565程度
鋼材販売量 (万t)	273	257	530	435程度	204	460程度
(うち、国内)	(200)	(193)	(393)		(143)	
(うち、輸出)	(73)	(64)	(137)		(61)	
鋼材販売単価 (千円/t)	86.7	87.1	86.9		79.1	
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.4%	23.4%	24.4%	24%程度	25.0%	24%程度
アルミ板販売数量 (千t)	152	147	299	300程度	152	310程度
(うち、国内)	(122)	(115)	(237)		(121)	
(うち、海外)	(30)	(32)	(62)		(30)	
アルミ押出販売数量 (千t)	17	17	34	30程度	12	30程度
(うち、国内)	(16)	(16)	(33)		(12)	
(うち、海外)	(1)	(1)	(1)		(0)	
銅板販売数量 (千t)	26	27	53	45程度	19	45程度
銅管販売数量 (千t)	44	38	82	65程度	32	65程度
溶接材料販売数量 (千t)	148	140	288	255程度	120	240程度
(うち、国内)	(65)	(60)	(125)		(49)	
(うち、海外)	(83)	(80)	(163)		(71)	

鉄鋼

(単位：億円)

		2019年度実績				2020年度見通し				
		1Q	2Q	上期	通期	1Q実績	2Q実績	上期	下期	通期
	鉄鉱石	10	15	25	20	5	0	5	30	35
	石炭	△5	△10	△15	△25	△5	△10	△15	0	△15
キャリーオーバー		5	5	10	△5	0	△10	△10	30	20
総平均		10	△5	5	25	30	△25	5	△35	△30
低価法		0	△5	△5	△25	△105	15	△90	100	10
在庫評価影響		10	△10	0	0	△75	△10	△85	65	△20

アルミ板

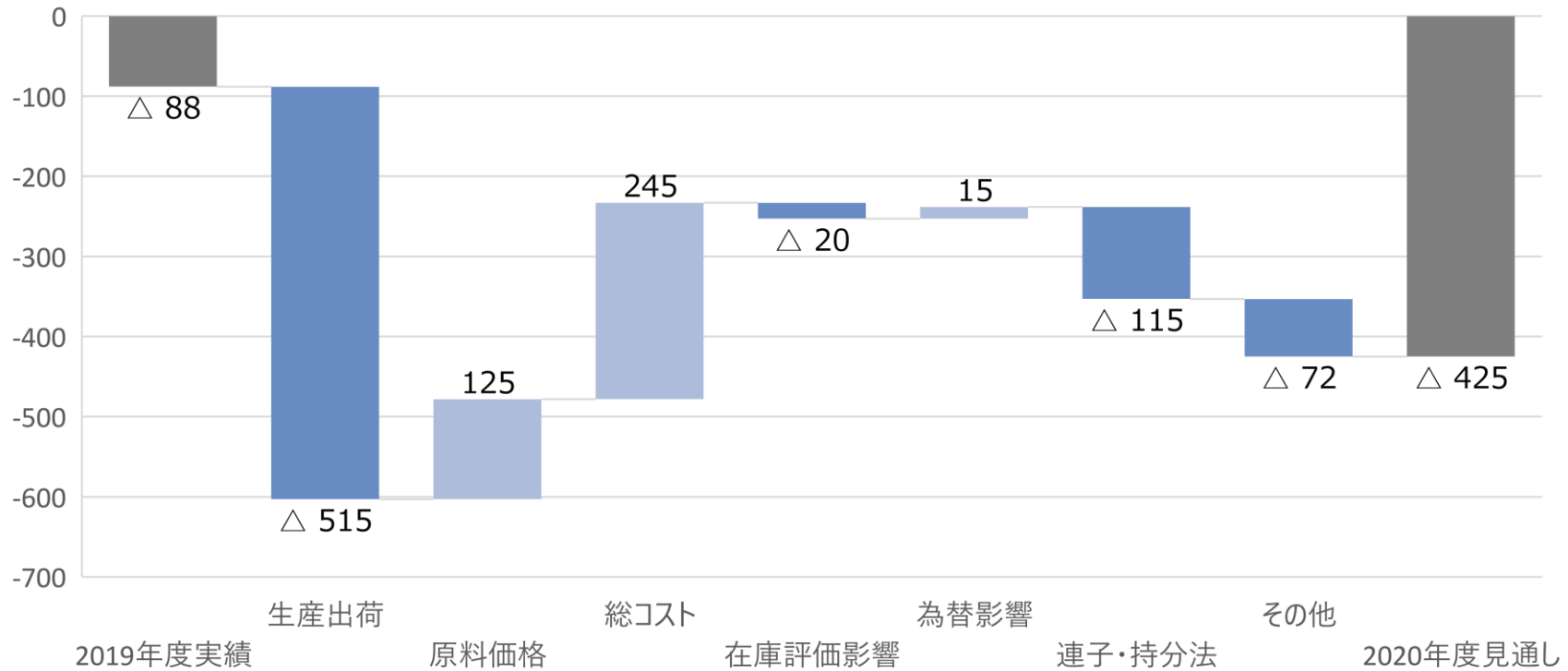
(単位：億円)

		2019年度実績				2020年度見通し				
		1Q	2Q	上期	通期	1Q実績	2Q実績	上期	下期	通期
総平均		△5	0	△5	△20	△10	△5	△15	△5	△20
低価法		0	0	0	0	△5	5	0	0	0
在庫評価影響		△5	0	△5	△20	△15	0	△15	△5	△20

(単位：億円)

	2019年度 実績 通期	2020年度見通し		
		上期	下期	通期
経常損益	△88	△404	△21	△425

△337

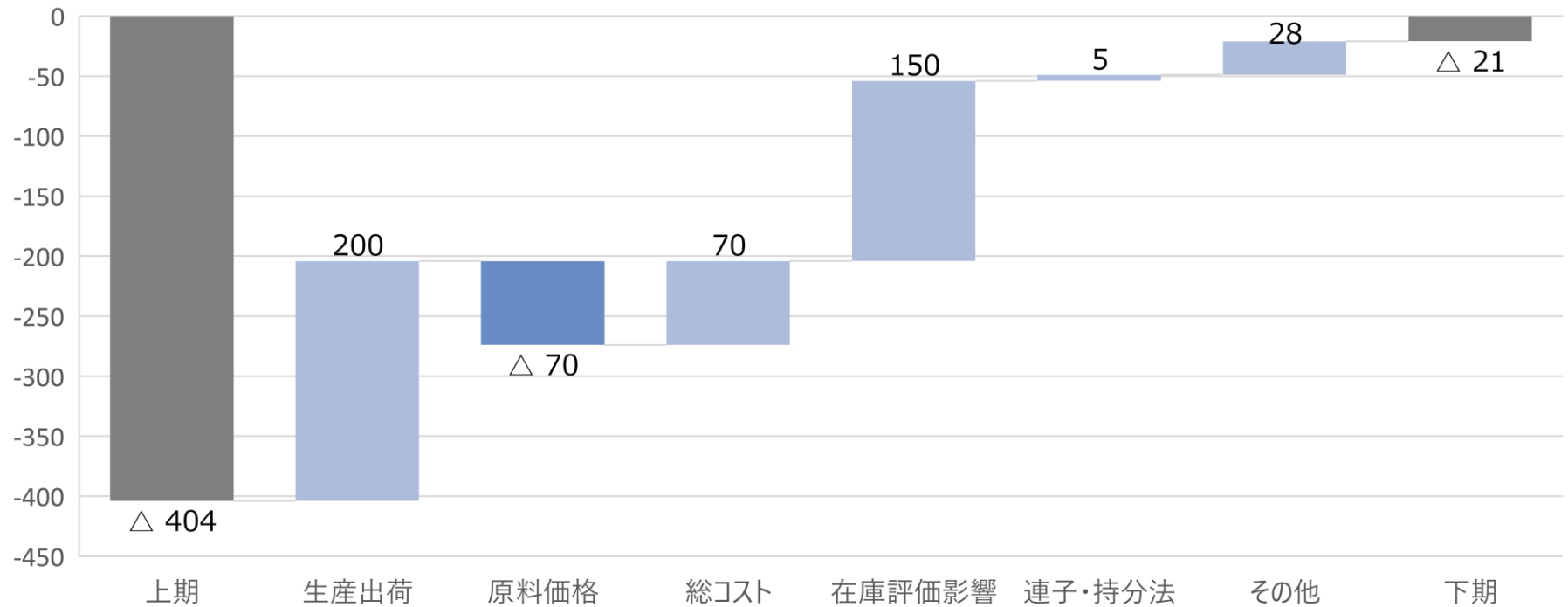


※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2020年度見通し		
	上期	下期	通期
経常損益	△404	△21	△425

+383

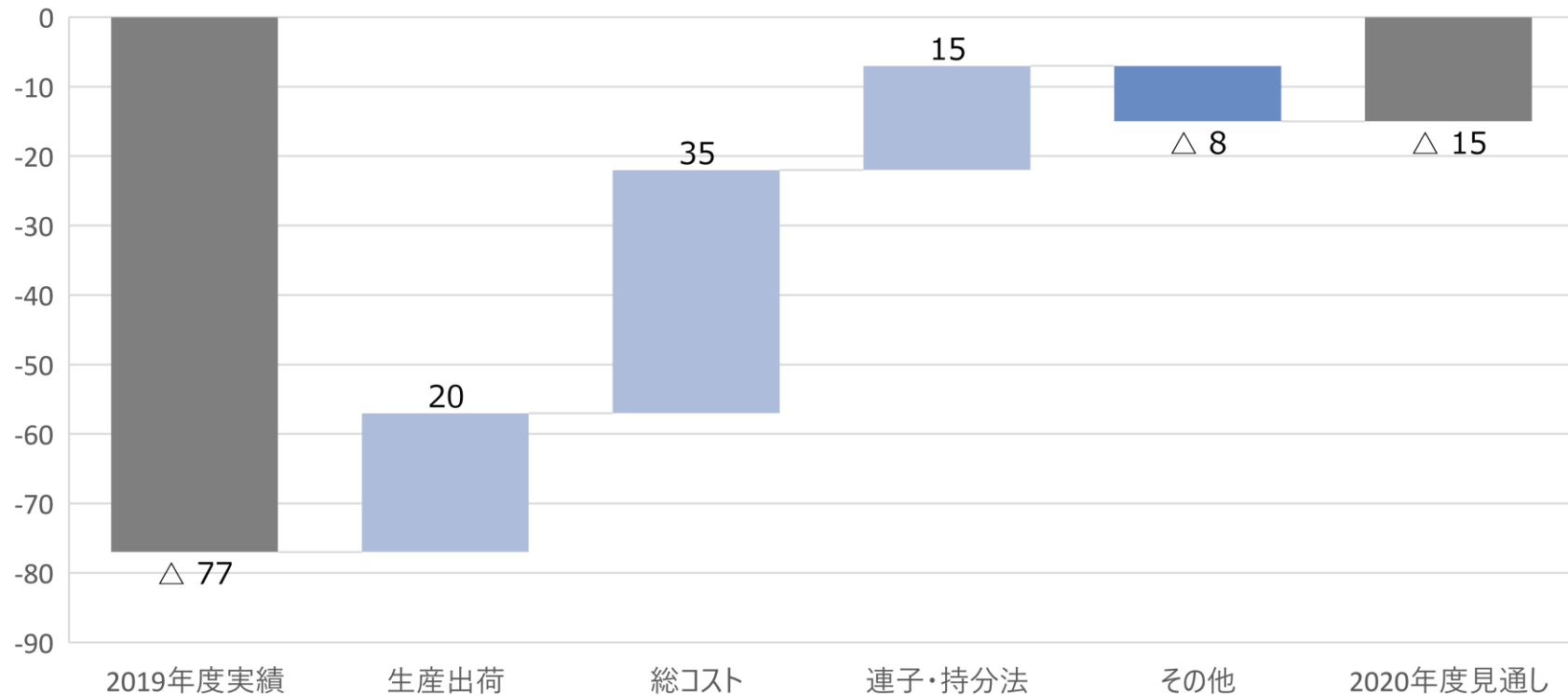


※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2019年度 実績 通期	2020年度見通し		
		上期	下期	通期
経常損益	△77	△14	△1	△15

+62



(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度見通し (前回) ②	2020年度見通し (今回) ③
営業キャッシュフロー	214	950	1,350
投資キャッシュフロー	△1,334	△950	△950
プロジェクトファイナンスを除く フリーキャッシュフロー	△1,120	0	400
プロジェクトファイナンスを含む フリーキャッシュフロー	△1,919	△650	△350
プロジェクトファイナンスを除く 現預金残高	1,349	600	650

増減	
③-①	③-②
+1,136	+400
+384	-
+1,520	+400
+1,569	+300
△699	+50

(単位：億円)

	2019年度 実績 ①	2020年度見通し (前回) ②	2020年度見通し (今回) ③
設備投資：計上額	2,398	1,650	1,550
設備投資：支払額	2,453	1,800	1,600
減価償却費	1,053	1,050	1,000

増減	
③-①	③-②
△848	△100
△853	△200
△53	△50

	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 見通し
ROS ※1	3.8%	1.8%	△0.4%	△2.1%
1株当たり当期純損益	174.43円	99.20円	△187.55円	△41.35円
有利子負債	7,388億円	7,603億円	9,066億円	8,850億円
プロジェクトファイナンスを除く 有利子負債	7,260億円	7,242億円	7,844億円	6,850億円
D/Eレシオ ※2	0.98倍	※3 0.98倍	※4 1.19倍	1.1倍程度
ROA ※5	3.1%	1.5%	△0.3%	△1.4%
ROE ※6	8.9%	4.8%	△9.7%	△2.3%

※1：売上高経常利益率

※2：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※3：2019年度分借入金の前倒し調達（921億円）含む

前倒し調達除く2018年度D/Eレシオ：0.85倍

※4：2020年度分借入金の前倒し調達（621億円）含む

前倒し調達除く2019年度D/Eレシオ：1.10倍

※5：経常損益／総資産

※6：親会社株主に帰属する当期純損益／自己資本

KOBELCOが 実現したい未来	「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来
	安全・安心で豊かな暮らしの中で、 今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。
KOBELCOの 使命・存在意義	KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命
	個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつづける。
KOBELCOの 3つの約束	KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します 2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します
KOBELCOの 6つの誓い	「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高い倫理観とプロ意識の徹底 2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献 3. 働きやすい職場環境の実現 4. 地域社会との共生 5. 環境への貢献 6. ステークホルダーの尊重

品質憲章

将来見通しに関する注意事項

- **本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまいう可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。**
- **上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。**
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化